

# 風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
 ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



## 大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

### ■ 大雨注意報・大雨警報・記録的短時間大雨情報

#### 大雨注意報

大雨による  
 災害が発生する  
 おそれがあると予測  
 される場合。

#### 大雨警報

大雨による重大な  
 災害が発生する  
 おそれがあると予測  
 される場合。

#### 記録的 短時間大雨情報

土砂災害や浸水害、  
 中小河川の洪水害の  
 発生につながるような  
 猛烈な雨が  
 降っている場合。

#### 雨の強さと降り方

(1時間雨量：mm)

10mm 以上～ 20mm 未満	20mm 以上～ 30mm 未満	30mm 以上～ 50mm 未満	50mm 以上～ 80mm 未満	80mm 以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、嚴重な警戒が必要。

#### 風の強さと吹き方

(平均風速：m/秒)

10m/ 秒以上～ 15m/ 秒未満	15m/ 秒以上～ 20m/ 秒未満	20m/ 秒以上～ 25m/ 秒未満	25m/ 秒以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

#### 台風

(平均風速：m/秒)

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。  
 台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/ 秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型 (大きい)	500km 以上～ 800km 未満	強い	33m/ 秒 以上～ 44m/ 秒 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/ 秒 以上～ 54m/ 秒 未満
		猛烈な	54m/ 秒 以上

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。  
 発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆ ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- ◆ 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- ◆ 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆ 非常時持出品を準備しておく。
- ◆ 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆ 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- ◆ 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- ◆ 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備する。

常に気象情報には、  
 注意しておきましょう！



# 火災

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

## 初期消火の3原則

### 1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。



### 2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。



### 火元別初期消火のコツ

#### 油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

#### ストーブ

消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

#### 衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類（繊維は避ける）やタオルなどを頭からかぶる。

#### 風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

#### 電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて（できればブレーカーも切る）消火を。

#### カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

### 3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



## 消火器の使い方

### 粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけるように引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

### 消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

# 火災予防が一番!!

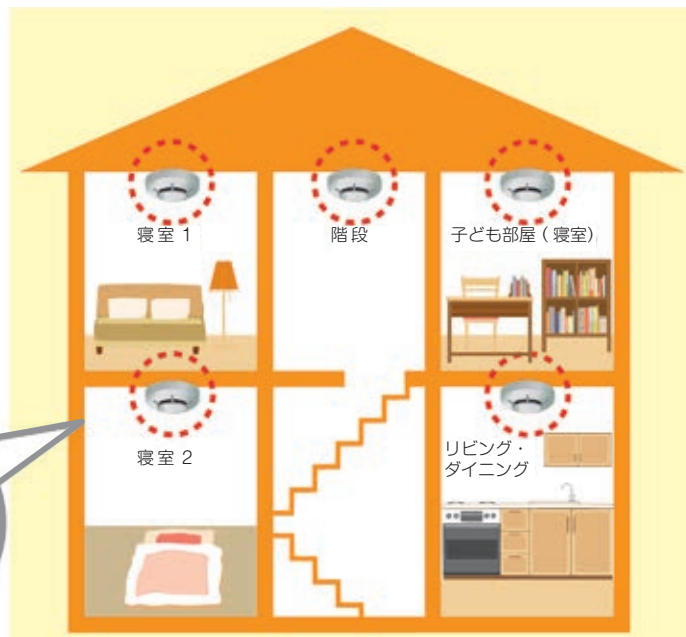
## 住宅用火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

### 火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室（子供部屋や老人の居室など就寝に使われている場合は対象となります）への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置もおすすめします。



住宅内取付位置図

# 地震

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

### 地震発生

1～2分

#### 最初の大きな揺れは約1分間

- ◆まず、身を守る安全確保 手近な座布団などで頭を保護
- ◆すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- ◆大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



#### 揺れがおさまったら

- ◆火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- ◆家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- ◆靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- ◆避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意
- ◆津波などの危険が予想される地域はすぐ避難



#### みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

##### 隣近所に声をかけよう

- ◆要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- ◆行方不明者はいないか ◆ケガ人はいないか

##### 出火防止 初期消火

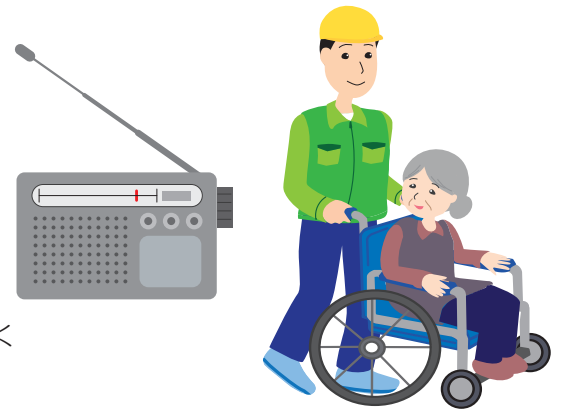
- ◆初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- ◆漏電・ガス漏れに注意 ◆電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ◆余震に注意

3分

5分

#### ラジオなどで正しい情報を得る

- ◆大声で知らせる ◆救出・救護を ◆防災機関、自主防災組織の情報を確認
- ◆デマにまどわされないように ◆避難時に車は極力使用しない
- ◆電話は緊急連絡を優先する



10分

数時間

3日

#### 協力して消火活動、救出・救護活動

- ◆水、食料は蓄えているものでまかなう ※3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- ◆災害・被害情報の収集 ◆無理はやめよう
- ◆助け合いの心が大切 ◆壊れた家に入らない



### 屋内にいた場合

#### 家の中

- ◆揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- ◆火の確認はすみやかに（コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに）。
- ◆乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- ◆裸足で歩き回らない（ガラスの破片などでケガをする）。

#### 集合住宅

- ◆ドアや窓を開けて避難口を確保する。避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



#### デパート・スーパー

- ◆カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

#### 劇場・ホール

- ◆カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- ◆あわてずに冷静な行動をとる。

### 屋外にいた場合

#### 路上

- ◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ◆近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- ◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

#### 車を運転中

- ◆ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ◆揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ◆避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

#### 海岸付近

- ◆高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。



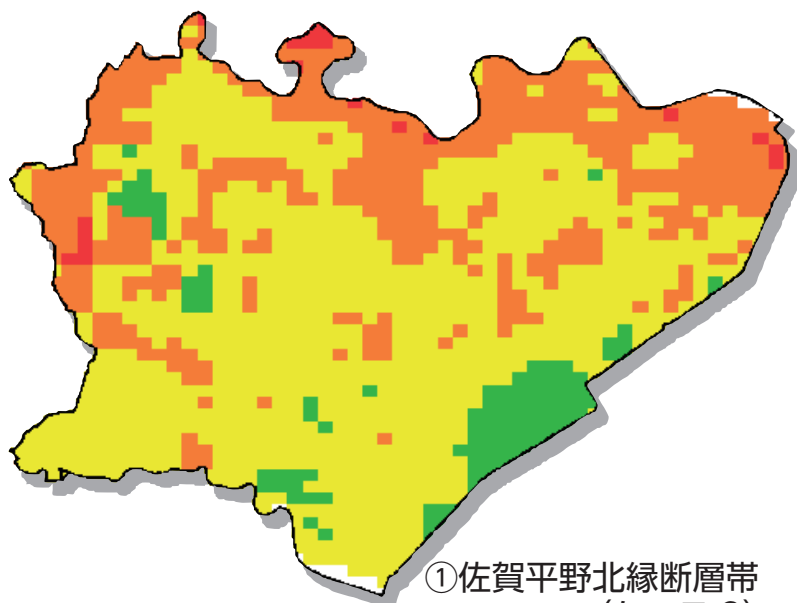
#### 電車などの車内

- ◆つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ◆途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- ◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

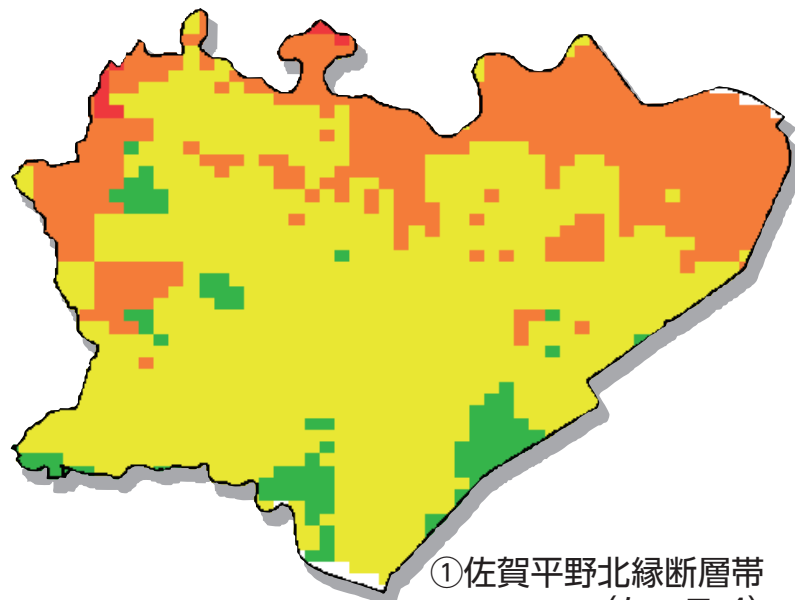


# 揺れやすさマップ

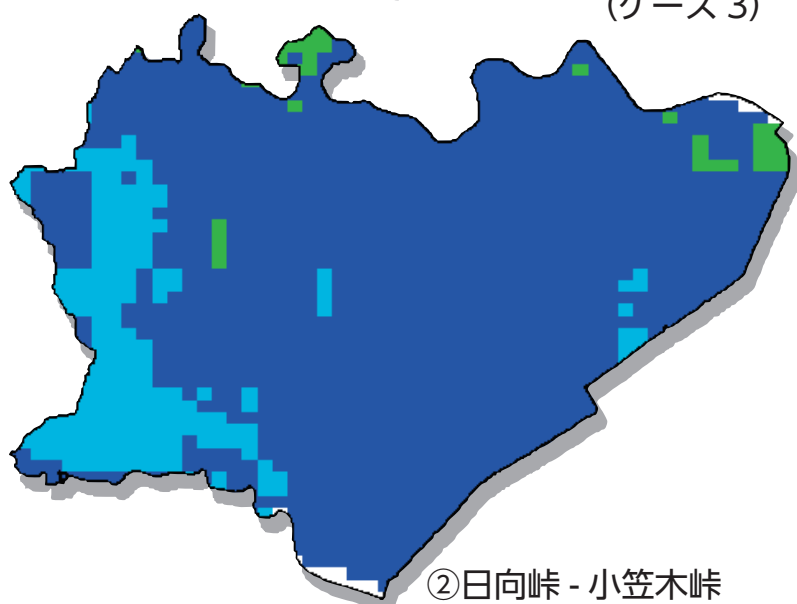
(白石町地表の地震動の震度分布図)



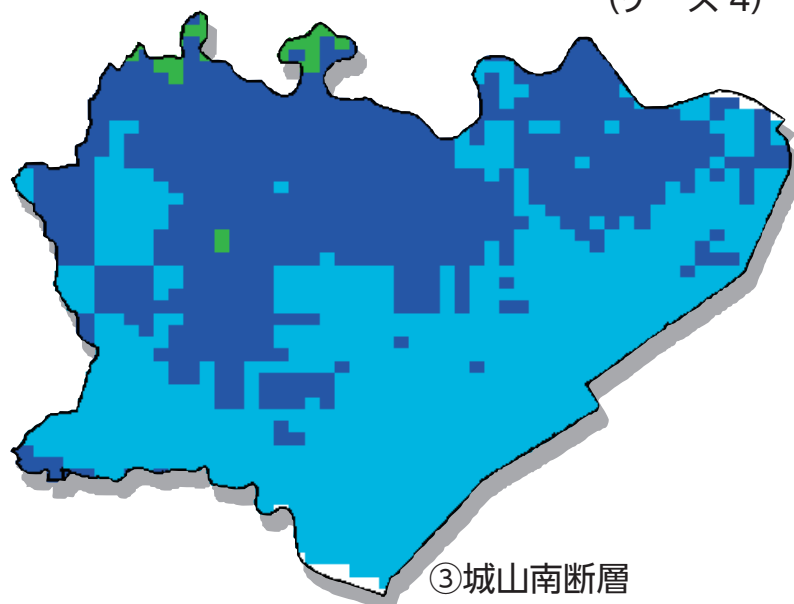
①佐賀平野北縁断層帯 (ケース 3)



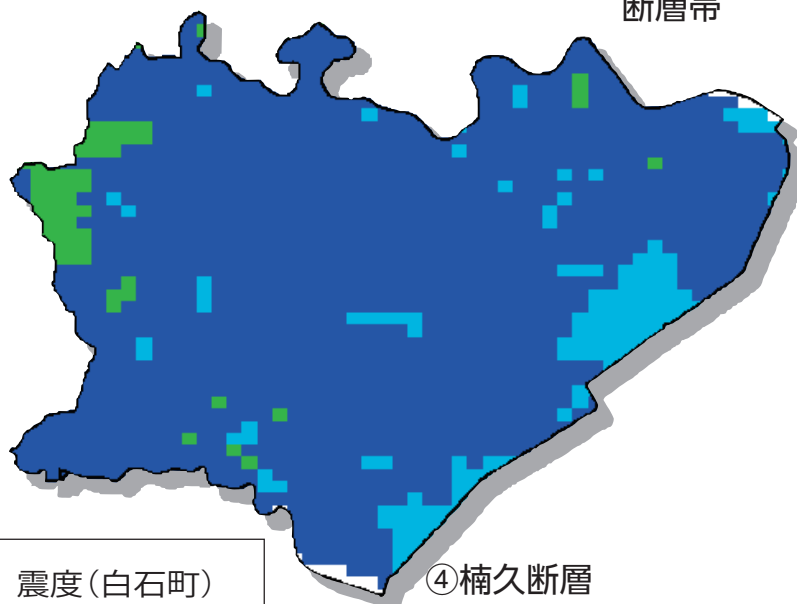
①佐賀平野北縁断層帯 (ケース 4)



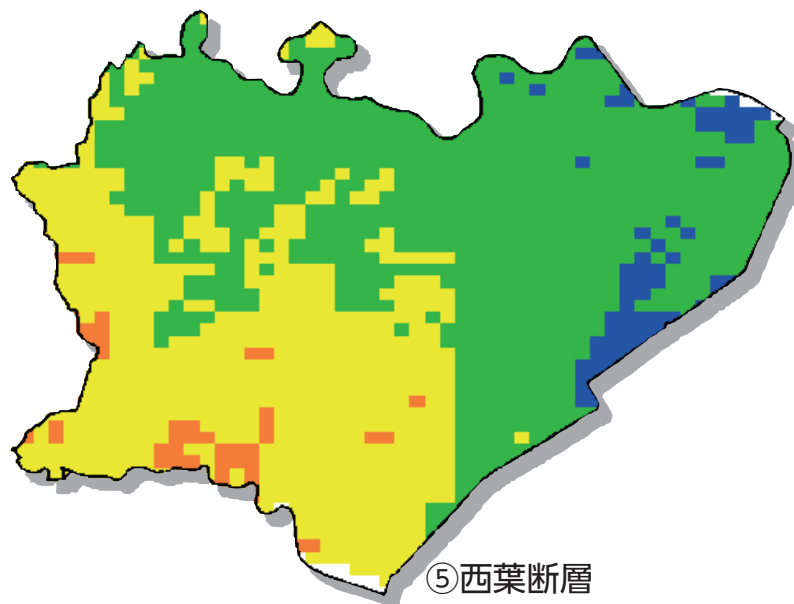
②日向峠-小笠木峠断層帯



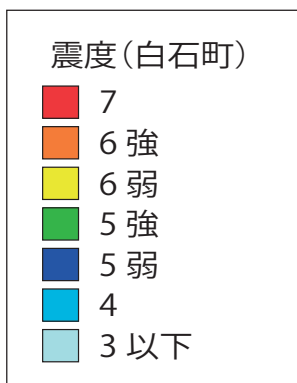
③城山南断層



④楠久断層



⑤西葉断層



○地震による災害を想定したため池ハザードマップ (別途配布済) も併せてご確認ください。  
 ※白石町ホームページにも掲載しております。